

第3章 おらほ産業

⑥ 秋田美人ラボ



× 毛

昨年7月にライブドアリサーチが行った「美人が多い都道府県は？」のインターネットアンケート(回答4288件、複数回答可)の得票率で、本県は21.99%を獲得しトップだった。2位は東京都の12.73%。1998年には化粧品メーカーと鹿児島大などの調査で、秋田市の50

代女性の肌状態は、紫外線量の差などに、鹿児島市の40代女性のそれに相当するという結果が出た。また「秋田美人」をキーワードにした事業展開を図ろうと、県商工会連合会は2006年度に「秋田美人倶楽部」を立ち上げた。本年度は化粧品を試験し、都内の展示会で発表している。

# 良質の肌世界が注目

秋田国のほぼ中央に位置する研究棟にはその日も、多くの女性が訪れていた。ガラス越しに、化粧品モニター(クリニカル)試験の順番を待つ姿が見える。初

が連なる。クリニカル試験を受託するため秋田国内で起業した会社が大半。中には試験受託からスタートし、ジュンサイ、コゴミなど秋田の素材を使った化粧品やサプリメントの製造、販

売に乗り出した会社もある。モニター女性は延べ五万人。モニターには試験に要する期間や内容に応じて、数千円から数万円の報酬が支払われる。空気の乾燥する冬がクリームなど基礎化粧品の需要期で、モニターもこの時期こそ必要だ。

健康、美容、食に関する商品の安全性は一層厳しく問われるようになってい

る。中でも化粧品は肌に直

接塗布する商品。美しくありたい女性の普遍的な願望だ。新旧の研究が、注目を集めた。

モニター候補は若い女性だけではない。いつまでも若くありたいというのも、

めて訪れる人、特に男性の多くは、こゝが「秋田美人ラボ」と呼ばれる理由が分かったように、感嘆の声を漏らす。

膨り深く、二重まぶたの大きな目が映える女性。隣にはふくらとした輪郭に細く優しい目が印象的な女性。「美人」のどちら方も各人で異なっても、肌の美しい女性が多いことは客観視できる。「七難隠す」色の白さが、秋田美人のイメージを形成していることをうかがわせる。

研究棟には各社の検査室

売に乗り出した会社もある。複数の受託会社がある欧米に比べ、日本は後発だった。しかし日本のモニターを望む動きは、世界的に高まっていた。厳しい安全基準を設ける日本で評価を得られれば、最高水準の安全性を保証されるからだ。

女性共通の心理だ。独立した二〇XX年当時で既に、秋田国は最高齢化国の一つ。アンチエイジング商品のクリニカル試験を行ううえで、老いてなお肌美人の多い同国は最適といえた。

三年前には化粧品、服飾業界の仕掛けで、秋田版パリコレ、「アキコレ」を初めて開催。老若の秋田女性をモデルに、美肌にふさわしいメイクやファッションを披露する趣向だ。米CNNがこのイベントと秋田美人ラボの様子を「肌モニ

ターの世界拠点」と報じた経緯もあり、関心はますます高まった。パリの大手メーカーの担当者も話す。手にはモニター肌の経時変化を示す写真。「秋田の女性は肌の色の変化が分かりやすくて助かるよ。あとは秋田で売りが上がるというんだよね」

秋田女性の評価は時代を経て変わらざる高い

健康、美容、食に関する商品の安全性は一層厳しく問われるようになってい

る。中でも化粧品は肌に直

接塗布する商品。美しくありたい女性の普遍的な願望だ。新旧の研究が、注目を集めた。

モニター候補は若い女性だけではない。いつまでも若くありたいというのも、

秋田は肌試験に最適

クリニカル試験の需要も高い。特に日本で試験をしたという要望は、世界各国から寄せられている。2006年に起業したが、日照時間の短い秋田は肌への外的影響が少なく、試験には最適の場所です。

この連載企画は現実のデータなどを活用して展開する近未来フィクションです。ご意見をお寄せください。☎018・888・1833、メールアドレスdokuritu@sakigake.jp

